

AI 実践研修 実務活用編：

「Gemini の基本を学び、自事業所で使う Gems（カスタム AI）を作る」

AI 実宣研修 組織浸透編：

「自社の理念や現場の記録を組み込み、利用者支援につながる AI へ発展させる」

【タイトル】AI 実践研修 実務活用編

【サブタイトル】

Gemini の基本から実践まで、自事業所で使える AI 活用を始める

実務活用編では、Gemini を中心に、生成 AI の基本操作と福祉現場での具体的な活用方法を学びます。

文章作成だけでなく、音声、画像、PDF、既存資料などを使った情報整理や、記録、計画書、会議資料などへの活用を実際に体験します。

さらに、7R プロンプトを活用して、自事業所の業務に繰り返し使える Gems（カスタム AI）を作成し、研修後に現場で使い始めるための導入計画まで作ります。

■AI 研修でできること

- ・ Gemini の基本的な操作方法を身につける
- ・ AI へ目的や条件を分かりやすく伝える
- ・ 音声、画像、PDFなどを AI で活用する
- ・ 記録、計画書、会議資料などの作成を効率化する
- ・ NotebookLM で自事業所の資料を整理・活用する
- ・ Deep Research で必要な情報を調査する
- ・ 自事業所の業務に使える Gems（カスタム AI）を作成する
- ・ 研修後に AI を導入するための具体的な計画を作る

■研修の特長

【基礎から学べる】

Gemini の基本操作から始めるため、生成 AI に慣れていない方でも、実際に操作しながら学べます。

【福祉現場で実践】

支援記録、計画書、会議録、家族向け文書、職員研修など、介護・福祉現場の具体的な業務を題材にします。

【作って持ち帰る】

学ぶだけで終わらず、自事業所の課題に合わせた Gems（カスタム AI）を実際に作成します。

【導入まで考える】

誰が、いつ、どの業務で AI を使うのかを整理し、研修後に実践するための導入計画まで作ります。

■研修で学べる主な内容

【1 Gemini と生成 AI の基本】

- ・ Gemini の基本操作
- ・ 質問と追加指示による回答の改善
- ・ 生成 AI の得意なこと、不得意なこと
- ・ 個人向け Gemini と Google Workspace 環境の違い
- ・ AI を安全に利用するための基本的な注意点

【2 7R プロンプトと実務活用】

- ・ AI へ目的、背景、条件を正確に伝える方法

- ・曖昧な質問と具体的な指示の違い
- ・福祉業務に使えるプロンプトの作成
- ・回答を確認し、追加指示で改善する方法

活用例：

- ・支援記録の文章化
- ・モニタリング内容の整理
- ・個別支援計画の作成補助
- ・会議録や申し送りの要約
- ・家族向け文書の作成
- ・職員研修資料やマニュアルの作成

【3 資料・情報を活かす AI 活用】

- ・音声による入力と文章化
- ・画像、PDF、文書ファイルの読み取り
- ・NotebookLM を使った資料の要約・整理
- ・登録した資料を根拠とした質問と回答
- ・Deep Research による制度、地域資源、支援方法などの調査
- ・Gemini、NotebookLM、Deep Research の使い分け

【4 自事業所向け Gems（カスタム AI）の作成】

- ・自事業所の業務課題を整理する
- ・AI に任せたい業務を決める
- ・Gems（カスタム AI）の目的と利用者を決める
- ・AI の役割、回答ルール、出力形式を設定する
- ・実際に質問して回答を確認する
- ・回答結果をもとに設定を修正する
- ・作成した Gems（カスタム AI）を発表・共有する
- ・研修後の活用方法と導入計画を作る

- ・ 経営者、管理者、サービス管理責任者、リーダー職
- ・ 介護・障害福祉事業所で AI 活用を始めたい方
- ・ 生成 AI に興味はあるが、何から始めればよいか分からない方
- ・ Gemini などの使い分けを学びたい方
- ・ 記録や計画書作成を効率化したい方
- ・ 会議、申し送り、情報共有を改善したい方
- ・ 自事業所の業務に合った Gems（カスタム AI）を作りたい方
- ・ AI を職員や組織へ導入する方法を考えたい方

■研修形式

- ・ 実際の画面を使用した操作実演
- ・ 参加者自身がパソコンを操作する実践演習
- ・ 介護・福祉現場の業務を題材としたワーク
- ・ 7R プロンプトの作成と回答比較
- ・ NotebookLM や Deep Research の体験
- ・ 自事業所の課題に合わせた Gems（カスタム AI）の作成
- ・ 作成した Gems（カスタム AI）の発表と改善
- ・ 研修後に実践するための AI 導入計画の説明
- ・ 実物（カスタム AI）を持ち帰る 2 日間の実践形式

■実務活用編で持ち帰る成果物

- ・ 自事業所の業務課題整理シート
- ・ 業務に活用する 7R プロンプト
- ・ 自事業所向け Gems（カスタム AI）
- ・ 研修後の AI 導入計画

■実務活用編で特に伝えたいこと

実務活用編は、生成 AI の機能や用語を学ぶだけの研修ではありません。

参加者自身が Gemini を操作し、記録、計画書、会議、情報共有など、自事業所の実際の課題に AI をどう活用するかを考えます。

そのうえで、繰り返し発生する業務や、職員によって品質に差が出やすい業務を選び、現場で使用する Gems（カスタム AI）を一つ以上作成します。

研修終了後には、「AI を知っている」という状態ではなく、

- ・ Gemini を自分で操作できる
- ・ AI へ具体的な指示を出せる
- ・ 業務に合った Gems（カスタム AI）を作れる
- ・ 現場で誰がどのように使うかを決められる

という状態を目指します。

【タイトル】 AI 実践研修組織浸透編

【サブタイトル】 自社の理念と現場の記録を活かし、利用者支援の質を高める

組織浸透編では、自社の理念、支援方針、判断基準、現場での行動規範を Gems（カスタム AI）に反映します。

さらに、日々の支援記録、朝礼・終礼、担当者会議、ヒヤリハット報告書など、現場に蓄積された情報を活用します。

一般的な回答ではなく、利用者一人ひとりの支援経過や自社の方針を踏まえた、具体的で現場に活かせる回答を得ることを目指します。

■ AI 研修でできること

- ・ 自社の理念や支援方針を Gems（カスタム AI）に反映

- ・日々の記録や会議情報を AI 活用につなげる
- ・利用者一人ひとりに合った支援方法を検討
- ・記録、計画書、モニタリング作成を効率化
- ・会議や申し送りの情報共有を改善
- ・Gems（カスタム AI）を組織で使う仕組みを構築

■研修の特長

【現場に合わせて】

自社の理念、支援方針、判断基準に沿った Gems（カスタム AI）を設計します。

【蓄積情報を活用】

支援記録、会議、申し送り、ヒヤリハットなど、現場に蓄積された情報を AI 活用につなげます。

【具体的な支援へ】

利用者一人ひとりの過去の記録や支援経過を踏まえ、次に検討すべき支援方法や確認事項を具体的に整理します。

【組織で使える】

作成した Gems（カスタム AI）を一部の職員だけでなく、組織全体で利用しやすい仕組みにします。

■研修で学べる主な内容

現在の 4 分割の項目を、以下の内容へ変更してください。

【1 7R プロンプトの復習】

- ・ AI へ目的や条件を正確に伝える
- ・ AI の役割や回答時のルールを設定
- ・ 繰り返し使える Gems（カスタム AI）へ改善

【2 自社の文脈を AI に反映】

- ・ 法人理念、支援方針、行動規範
- ・ 現場での判断基準
- ・ 業務手順や安全上のルール
- ・ 自社に合った回答を得るための情報整理

【3 現場の記録・情報との連携】

- ・ 日々の支援記録
- ・ 朝礼・終礼の文字起こし
- ・ 担当者会議の記録
- ・ ヒヤリハット報告書
- ・ 計画書やモニタリング資料

これらの情報を整理して Gems（カスタム AI）へつなぎ、利用者一人ひとりの支援経過を踏まえた、具体的な支援方法の検討に活用します。

【4 組織で使う仕組みづくり】

- ・ Google サイトを使った AI ステーション
- ・ Gems（カスタム AI）、資料、マニュアルの集約
- ・ 職員が必要な AI へアクセスできる共通の入口
- ・ Gemini Canvas を使った簡単なアプリ作成体験

■対象

- ・ 経営者、管理者、サービス管理責任者、リーダー職
- ・ 生成 AI の基本操作ができる方

- ・ Gems（カスタム AI）の作成や活用経験がある方
- ・ 記録や計画書作成を効率化したい方
- ・ 会議、申し送り、情報共有を改善したい方
- ・ 蓄積した記録を利用者支援へ活かしたい方
- ・ AI を個人利用から組織活用へ広げたい方

■研修形式

- ・ 実際の画面を使用した実演
- ・ 自社の業務や記録データを題材とした演習
- ・ Gems（カスタム AI）の作成・改善
- ・ 自社の理念や現場情報を反映する設計
- ・ AI ステーションの設計体験
- ・ 実務で使える状態を目指す実践形式

■皆さまにお伝えしたいこと

今回の組織浸透編では、単に事務作業を効率化することだけでなく、AI の回答の質を高めることで結果、事務と現場支援の効率の質を高めることができるということを伝えたいです。

例えば、蓄積された記録から、一般論ではなく、A 様の過去の経過や特性に合わせた支援方法や確認事項を Gems（カスタム AI）が整理します。

その内容を職員が確認することで、次に何を試すかが明確になり、現場ですぐに行動へ移しやすくなります。

ただし、AI が支援方法を決定するという表現ではなく、最終的な判断は職員や専門職が行うことを前提です。

以上の内容で、文章の差し替えをお願いいたします。よりよい表現があれば、変更いただいても構いません。